

建築士会 C P D 制度

C P D 制度参加者用 ガイドライン



社団法人 日本建築士会連合会

Ver.2(2010 年 3 月)

(社) 徳島県建築士会版

目 次

1. 建築士会CPD制度の概要

はじめに

- 1 - 1 CPD実施の概要
- 1 - 2 システムの変更
 - (1) 新システムによる単位登録の流れ
 - (2) ICカード方式の採用とメリット
- 1 - 3 履修対象プログラムの厳格化
- 1 - 4 年間 12 時間以上の履修の推奨
- 1 - 5 建築士会CPD制度への参加方法
- 1 - 6 プロバイダー登録、プログラムの認定、出席者リストの提出方法
- 1 - 7 認定プログラムの公開
- 1 - 8 建築CPD情報提供制度への登録
- 1 - 9 行政機関等におけるCPDの活用
- 1 - 10 認定対象となるプログラム
 - (1) 建築士会CPDプログラム認定方針
 - (2) 建築士会CPDプログラム形態分類表
 - (3) 建築士会CPDプログラム分野分類表

2. 建築士会CPD制度の参加方法について ～ 建築士会CPD参加者用マニュアル

はじめに

- 2 - 1 参加登録方法
 - (1) 参加登録申込先建築士会
 - (2) 参加申込書
 - (3) CPDカード作成申込書
 - (4) 費用
- 2 - 2 建築士会CPD単位の取得方法
 - (1) 講習会等に参加した場合
 - (2) 講習会等の講師の場合
 - (3) 認定教材の場合
 - (4) 取得単位の確認方法
- 2 - 3 他団体CPD制度とのデータの交換
- 2 - 4 CPD実績証明書の活用
 - (1) 行政機関の発注入札当への活用
 - (2) 専攻建築士の登録、更新への活用

3. 建築士会CPDシステム 参加者用システム利用マニュアル

はじめに

- 3 - 1 システム利用のための初期登録
- 3 - 2 取得単位の確認方法
- 3 - 3 認定教材の設問への解答方法

1. 建築士会CPD制度の概要

はじめに

建築士会では、建築士会会員の知識、技術、に関する研鑽と倫理観の醸成のために、平成 14 年、自主的に CPD 制度を始め、意欲的な会員の支持を得て、運営してきました。

平成 21 年 1 月 5 日施行の改正建築士法第 22 条の 4 の規定によりすべての建築士に対する研修を行うことが建築士会に義務付けられたことを受け、従来から行ってきました CPD 制度を大幅に改め、オープン化して非会員の方たちにも広く門戸を開くこととしました。

それは、CPD の実績データの行政機関での活用が、地方の建築工事での入札で広まっており、同じ施工現場で働く技術者として建築士にのみ CPD が提供されている現状や、一部の建築士会では県からの要請で「建築施工管理技士」にも CPD を提供していたことなどから、全ての建築技術者に建築士会 CPD を提供することに踏み切りました。

これまでのシステムを一新し、より利便性の高い IC カードによる新システムを採用して、活用先の要望に応じて履修証明を容易に発行できるしくみとします。

以下にその概要を示します。

1 - 1 CPD 実施の概要

建築士会が建築士等の能力開発にふさわしい研修として認定した講習会等の研修プログラムに CPD 参加者が出席し、その情報を CPD 単位として建築士会が専用サーバーに登録することで CPD 参加者の履修履歴を蓄積します。この履歴に基づき、参加者の求めに応じて建築士会が証明書を発行する仕組みです。現在、多くの行政機関等が工事入札等において建築士会の発行する証明書を加点等評価の対象としています。

1 - 2 システムの変更

これまでの研修プログラムへの参加時にバーコードシールの配布と、バーコードを貼付した CPD 手帳の提出により CPD 履歴に登録する方法を改め、研修プログラム参加時に IC カード等による研修会場等での出席記録等により登録を行う仕組みに変更します。

(1) 新システムによる単位登録の流れ

研修プログラム参加時に個人 ID (建築士登録番号ほか) の入った「CPD カード」により研修会場等に設置されたカードリーダーに入力することで出席記録とし、建築士会(事務局)がカードリーダーに記録された出席者リストをデータ化して連合会の設ける専用サーバー(履歴簿)へ登録します。

出席者数の少ない研修の場合は、「氏名と CPD 番号(または建築士番号または施工管理技士番号のいずれか一つ)」をエクセルで入力したデータを作成し、それをサーバーへ登録することも可能です。

また、予め「CPD 番号または建築士番号と氏名」の入力されたエクセルによる受講申込名簿等がある場合には、そこから欠席者を除いて、サーバーに登録することも可能です。

サーバーへ登録の漏れた出席者のデータについては、後日、登録することも可能です。

連載講座等の認定教材の履修登録は、ネット上で CPD 参加者が設問に対する解答を入力し、正解の場合に建築士会(事務局)が CPD 履歴として登録します。

(2) IC カード方式の採用とメリット

IC カード方式を採用することで、

CPD の単位を登録するための手帳の提出が不要となります。

単位登録に要する時間が大幅に短縮でき、ネット上で自身の単位の取得状況が確認できます。など、利便性が向上します。

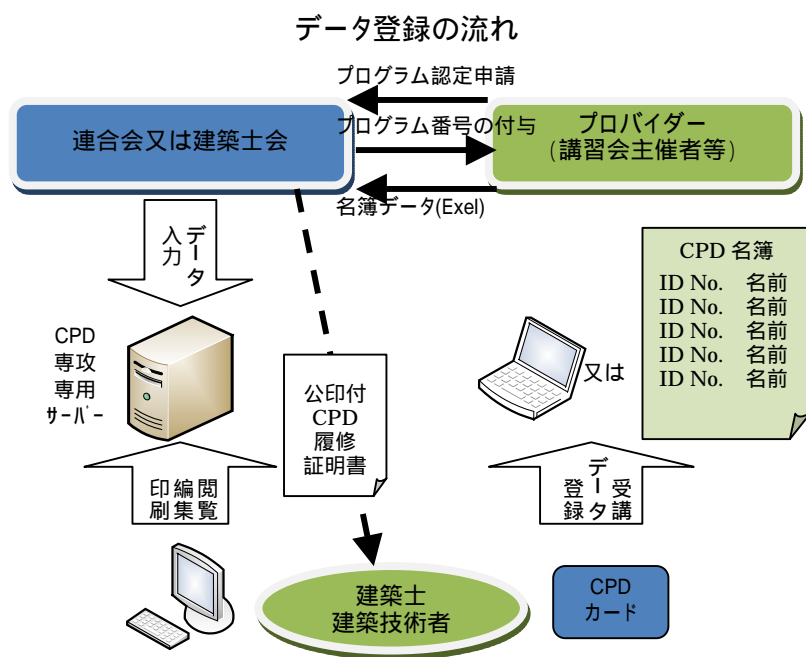


表 1 CPD 制度改正の新旧比較

		旧制度	平成22年4月より適用
CPD参加資格		建築士会会員限定	すべての建築士 施工管理技士等すべての建築関連技術者
履修実績の記録・登録	データ登録・管理方法	バーコード方式 各建築士会のPCで管理	カード方式 建築士会専用サーバーで管理
	参加型研修	講習会場等でのバーコードの配布と手帳の提出により登録	講習会場でカードによる出席記録に基づき登録
	認定教材	誌上掲載の設問への解答とバーコードを手帳に貼付して士会へ提出	HP上で設問に答えた後に、事務局の確認を経て登録
	事後申請の扱い	自己申告に個別に対応	原則認定外、ただし、内容等により認定する場合もある(有料)
履修対象プログラム	プログラム種別	社会貢献型	情報提供型(社会貢献型、講師)
		情報提供型	
		委員会活動型	- 対象外 -
		認定研修	参加型研修(特別認定研修、講習会、法定講習、見学会等)
		その他講習会・見学会等	
		認定教材による自習	認定教材による自習
	プログラム認定	実務型	- 対象外 -
		プログラム評議会等により認定	事前に申請されたプログラムについて、全国統一基準による厳格な認定を原則とする
履修実績の活用	単位換算	研修別により重み付け	実時間換算とし、重み付けは行わない
	能力開発の目標	年間36単位	年間12単位以上
	履修実績の確認	証明書の交付により確認	HPで常時確認可能
	履修実績の提供	活用先にあわせて、手作業で提出データを整理、提出	必要ときに必要なデータを容易に編集、提供可能

1 - 3 履修対象プログラムの厳格化

制度改正に伴い、対象となるプログラムは、審査委員会による「事前認定」を原則とします。
また、「実務による研修」、「委員会活動」、「認定教材を除く自習型研修」は対象外となります。
そして、単位換算も研修による重み付けを無くし、休憩時間なども控除した厳格な実時間単位(30分を超える時間は1時間)に統一します。(1-10 認定対象プログラム参照)

1 - 4 年間 12 時間以上の履修の推奨

12 時間/年以上の履修者を「CPD 建築士」、「CPD 技術者」として「努力する建築士・技術者の証」として建築士会ホームページで公開します。また、推奨時間は専攻建築士の認定基準にも活用します。

1 - 5 建築士会 CPD 制度への参加方法

建築士会 CPD 制度に参加を希望する建築士等は、建築士会で所定の手続と所定の費用を納めて参加登録をします。

1 - 6 プロバイダー登録、プログラムの認定、出席者リストの提出方法

講習会等の主催者（プロバイダー）が、自ら行う講習会等を建築士会 CPD 認定プログラムとする場合、先ず建築士会へプロバイダー登録をします。

次に、プロバイダーがプログラムの認定申請を行い、建築士会内の審査会がその内容を審査します。
認定されたプログラムの開催終了後にプロバイダーは出席者リストを建築士会へ提出します。

1 - 7 認定プログラムの公開


本会で認定するプログラムについては、ホームページにおいて公開すると共に、CPD 参加者専用メンバーリングリストにより、直接 CPD 参加者へ認定プログラム情報として配信いたします。
プログラムの表示は、以下の条件で絞り込み検索が可能です。

絞り込み条件

形態
講習会、見学会等
分野
倫理・法令、設計・監理等
実施場所都道府県
プロバイダー名
実施日あるいは実施期間

表示されるプログラム

認定プログラム一覧

現在、登録されているプログラム情報の一覧です。
背景色が  に変わっている認定プログラムは、開催日時が本日[2010年2月29日]以前のものです。

絞り込み条件

形態	選択してください
分野	選択してください
実施場所	都道府県 <input type="text"/> プロバイダー名 <input type="text"/>
実施日	2009 年 04 月 01 日 ~ 2010 年 03 月 31 日迄

☐ 検索条件無し ☒ 検索条件有効

認定済プログラムの意味

1件の認定プログラムから日付順に20件ずつ表示しています。(Page 1 / 1)

【<< 最初】 【< 前へ】 【次へ >】 【最終 >>】

【2010年2月29日 現在】

日時	認定プログラム名	プロバイダー名	形態	分野	地域	会場	単位
2010年3月1日～ 2010年3月1日迄	テスト入力認定プログラム	(社)北海道建築士会	士会特別認定講習会	設計・監理分野 設備系・輸送	北海道	テスト入力認定プログラム責任者会場	2

1 - 8 建築 CPD 情報提供制度への登録

本会で認定するプログラムについては、(社)日本建築家協会および建築 CPD 情報提供制度(事務局：(財)建築技術教育普及センター)においても認定プログラムとして登録されますので、取得単位がそこで活用されます。ただし、「認定教材」については、情報提供制度の対象とはなりません。

1 - 9 行政機関等における CPD の活用

行政機関の工事入札等において、平成 22 年 3 月現在で 25 県と 10 市および国土交通省が建築士会 CPD を加点の対象としています。

すべての建築士と建築施工管理技士にも CPD をオープンにすることで、今後、新たに発注工事入札等において CPD を加点対象とする機関は加速的に増えると予想されます。

したがって、今後、CPD に業務的なメリットを感じて新たに同制度に参加する建築技術者が増えると同時に CPD 単位取得のために各種の研修プログラムに参加される機会も増えるものと予測します。

1 - 10 認定対象となるプログラム

認定プログラムの対象となるプログラムは、以下の「建築士会 CPD プログラム認定基準」および「建築士会 CPD プログラム判定指針」に基づき、建築士会 CPD 審査委員会が審査を行います。

(1)「建築士会 CPD プログラム認定方針」

1. 認定時間についての指針	研修プログラムの認定時間は、当該研修プログラムの研修の内容となるべき実質時間とし、次の 及び に即して算定するものとする。 認定時間は、研修プログラムの実質時間を積算し、30 分未満の端数があるときは、その端数を切り捨て、30 分以上の端数があるときは、これを 1 時間に切り上げ、1 時間単位に換算した時間とする。 昼食時間又は移動時間は、実質時間の積算の対象としない。 開催日が複数にわたる場合は、各開催日ごとの研修実時間とする。
2. 認定方針	1. 研修プログラムは「建築士や建築関連技術者の知識及び技術の向上や公共の福祉の増進に資するもの」 2. 研修プログラムの内容が、次の から までに掲げるものに該当するときは、第 13 条の認定をすることができない。 懇親やレクリエーションを目的とするもの 別表第 1 - 1 の研修プログラムの形態若しくは内容又は別表第 1 - 2 の研修プログラムの分野にあてはまらないもの 客観的な事実に基づき、特定の商品、材料、各種ソフト等の宣伝、販売、取り扱い説明等を目的とするものであると判断されるもの
3. 研修責任者の設置及びその責務	研修プログラムの実施及び出席者名簿の管理に関してすべての責任を担う者（以下「責任者」という。）を定めなければならない。 責任者は、第 13 条第 1 項の名簿（電子データにより作成するものであること。）の作成及び提出を行うほか、研修プログラムの実施を証する資料（ 1 ）を当該研修プログラムの実施の日から起算して 1 月が経過する日まで保管し、その間に本会又は建築士会の請求があったときは、これを提出しなければならない。 *1：当該研修プログラムの案内用リーフレットの類、テキストの類及び研修実施中の写真（日付があり、およその全体人数が把握できるカットと講師が映っているカットが望ましい。） *1：研修資料と研修実施中の写真（日付があり、およその全体人数が把握できるカットと講師が映っているカットが望ましい）

(2) 建築士会CPDプログラム形態分類表

プログラム形態分類		内容	単位換算基準 *1
参加型研修	士会特別認定研修	建築士法第22条の4に基づき、建築士会が行うすべての建築士のための総合研修	認定時間 × 1
	講習会等	講習会 基準・規準・指針・マニュアル等講習会、セミナー/シンポジウム/講演会/ワークショップ、各団体大会、学会・協会主催の研究発表会、企業内研修(所属組織内における技術・研究発表会、研修会)、通信教育等	認定時間 × 1
	法定講習	建築士法第10条の2に基づく構造設計一級建築士講習、設備設計一級建築士講習 建築士法第22条の2に基づく建築士定期講習、構造設計一級建築士定期講習、設備設計一級建築士定期講習 建築士法第24条に基づく管理建築士講習	認定時間 × 1
	見学会等	見学会 見学会、国内外視察、企業内研修(所属組織内における見学会、国内外視察)	認定時間 × 1
	認定教材	予めプログラム評議会で認定された教材を用いての学習	内容と頁数により1~5単位 教養書の内容の本は上限3単位
情報提供型研修	講師等	上記参加型研修の各研修の講師等 ただし、ワークショップ等のテーブルマスター等を除く	認定時間 × 1
	社会貢献活動	建築士会等の公益法人が行う住宅相談、震災時等建築物応急危険度判定、裁判所等に派遣された鑑定人・調停人活動、地方自治体主催の建築相談、まちづくり活動等の緊急性又は公共性の高い活動	認定時間 × 1

(3) 建築士会CPDプログラム分野分類表

プログラム分野分類			プログラム分野コード
倫理	倫理		B110
	法律、規準、基準、規格、建築紛争		B120
	その他		B130
設計・監理分野	計画系	建築意匠、建築計画、建築材料、街づくり、計画系他	B210
	構造系	力学・動力学、構造解析、構造材料、各種構造学、基礎構造、地震・耐震工学、構造系他	B220
	設備系	空調	B231
		衛生	B232
		電気	B233
		輸送	B234
		全般、その他	B235
施工管理分野	建築系		B310
	設備系		B320
マネージメント分野	生産・管理	企画、事業計画、CM、PM、RM、コスト管理、積算、品質保証、安全管理、コンカレント設計他	B410
	事務所等運営	企業・事務所運営、契約他	B420
関連分野	関連分野	建築論、建築史、技術動向、コンピュータソフトウェア、工学技術に関する外国語、土木、都市計画、保存、景観、福祉他	B510

新・CPD制度費用表

	現 行	新制度(会員)	新制度(会員以外)
初期登録費	3,000(手帳含む)	0円	2,000円
データ登録・管理 (未納の場合は、データの閲覧不可になる)	2,000/年	1,000円	3,000円
CPDカード発行費	手帳代500円/1冊	1,000円(送料含む)	3,000円(送料含む)
情報提供制度利用費	無料	500円	500円
証明書発行費	会員1,000円	500円	2,000円
事後申請データ登録料	無料	500円	1,500円

新規のCPD参加登録方法について

同封

・CPDカード作成申し込み用紙

・CPD、建築CPD情報提供制度申し込み用紙

記入の上金額を添えてお申し込み下さい。

	会 員	会員外
カード作成料(初年度のみ)	1,000円	3,000円
建築士会CPD制度のみ参加(毎年)	1,000円	3,000円
建築士会CPDと建築CPD情報提供制度の両方に参加(毎年)	1,500円	3,500円

建築士会 C P D 制度参加登録申込書

徳島県建築士会会長 様

1. 私は、社団法人日本建築士会連合会及び建築士会が建築士会 C P D 規則に基づき実施する「建築士会 C P D 制度」に参加し、建築に携わる技術者として必要な能力の開発に資する活動を継続的に行うとともに、その状況を社会に明示することを通じ、建築士その他の建築に携わる技術者の知識及び技術の向上を図ることに努めます。
2. C P D 参加登録に必要な情報について、下記により提出いたします。
3. C P D を実施するために必要な費用について、建築士会の定める金額を建築士会の定める方法で納めます。

平成 年 月 日

以下の基本情報・登録情報については、建築士会が行う C P D 制度の目的に関連する以外の目的には使用しません。

フリガナ 氏 名			生年月日	(西暦) 1 9 年 月 日	
CPD 番号	3600		11 桁 現在 CPD を行っている方のみ記入して下さい。		
勤務先名称					
勤務先住所 (勤務先がない 場合は自宅)	〒				
TEL			FAX		
e-mail					
資格	建築士	一級・二級・木造	登録番号	都道府県名 () 第 号	
		構造一級建築士証	第	号	
		設備一級建築士証	第	号	
	建築施工管理技士	一級・二級	登録番号		
建築士会の 登録	1. 会員 2. 非会員 3. 入会希望				
建築 C P D 情報提供制度の利用希望の有無 ・ 建築 CPD 情報提供制度とは、建築 CPD 運営会議（事務局：（財）建築技術教育普及センター）が運営しています。（詳細は、 http://www.jaeic.or.jp/ へ） ・ 建築士会 CPD 制度の履修データを、建築 CPD 運営会議へ登録するかどうかについて、 1. または 2. に を付けて回答してください。 建築士資格を持たない建築施工管理技士等の方は利用できません。					1. 希望する 希望する場合は年間 500 円が データ登録・管理費にプラスさ れます。 2. 希望しない
右記の費用を添えて 申込みいたします	初期登録費	データ登録・管理費	カード発行費	建築 CPD 情報 提供制度参加費	合計 円

建築士会CPDカード作成用 情報記入・登録書式

	通番	CPD登録番号	氏名	シ	メイ	建築士区分	一級建築士番号	二級建築士番号	IC用二級番号	木造建築士番号	IC用木造番号	建築施工管理技士番号	構造設計士証番号	設備設計士証番号	会員証/CPD切替情報	会員証とする場合の士会独自の会員番号	所属/会員・非会員切替情報	建築士/施工管理技士切替情報	IC用生年月日情報	CPD情報提供制度利用 有無	
記入例	半角	半角	全角	全角	全角カナ	全角カナ	半角	半角	文字は全角 数字は半角	半角	文字は全角 数字は半角	半角	半角	半角	半角	半角	文字は全角 数字は半角	半角	半角	半角	
	00001	13001234567	建築	太郎	ケンチク	タロウ	1	999999						12345		1	100	1	19600123	1	
	00002	28009876543	建築	次郎	ケンチク	ジロウ	2			鳥取県98762	98762				23456	2		2	1	19550812	2
	00003	01005678900	建築	三郎	ケンチク	サブロウ	3					北海道札幌7777	(9)7777			2		2	1	19750324	1

	通番	CPD登録番号	氏	名	シ	メイ	建築士区分	一級建築士番号	二級建築士番号	IC用二級番号	木造建築士番号	IC用木造番号	建築施工管理技士番号	構造設計士証番号	設備設計士証番号	会員証/CPD切替情報	会員証とする場合の士会独自の会員番号	所属/会員・非会員切替情報	建築士/施工管理技士切替情報	IC用生年月日情報	CPD情報提供制度利用 有 無
データ形式	半角	半角	全角	全角	全角カナ	全角カナ	半角	半角	文字は全角 数字は半角	半角	文字は全角 数字は半角	半角	半角	半角	半角	半角	半角	半角	半角	半角	半角
記入欄	建築士会が記入	建築士会が記入								建築士会が記入		建築士会が記入				建築士会が記入	建築士会が記入	建築士会が記入	建築士会が記入		

・すべてのセルの形式を「文字列」で入力してください。

2 - 2 建築士会CPD単位の取得方法

(1) 講習会等に参加した場合

建築士会等が認定した研修プログラムに参加すると、出席記録をCPD単位として登録されます。基本は、CPD単位登録に必要となるCPD番号と氏名等に関するデータが入ったCPDカードを使用します。

研修プログラム参加時に会場等に設置されたカードリーダーに個人ID（建築士登録番号ほか）の入った「CPDカード」を当てます。

これによる出席記録を、建築士会事務局がデータ化してサーバーに登録します。

開催規模の小さい研修の場合、建築士会が別途データを作成して登録する場合があります。

また、プロバイダーによっては、講習会受講申込時に予め「CPD番号または建築士番号と氏名」の記入を求める場合があります。

この場合は、プロバイダーが受講申込名簿から当日の欠席者を除いて出席者リストを作成し、後日、建築士会がサーバーに登録します。

CPDカードを忘れた場合には、当日、会場に用意された手書き記入用名簿にCPD番号とカナ氏名を記入してください。

なお、手書き記入に誤りがあった場合には、データ登録はできませんので、正確に記入してください。

(2) 講習会等の講師の場合

建築士会認定プログラムである講習会等の講師としての活動をCPD単位とする場合、プロバイダーが出席者リストの講師欄にCPD番号とカナ氏名を記入します。

(3) 認定教材の場合

連載講座等の認定教材の履修登録は、教材で学習後に誌上に掲載される設問への解答をCPD参加者がネット上の専用画面（建築士会CPDシステム・参加者用画面）で入力し、正解の場合に建築士会（事務局）がCPD単位として登録します。

システムの使用には、所定のURLからシステムにログインして行います。（システムの利用方法は第3章参照）

(4) 取得単位の確認方法

建築士会CPDシステム・参加者用画面にログインして確認ができます。（システムの利用方法は第3章参照）

2 - 3 他団体CPD制度とのデータの交換

本会とCPD制度で連携し、概ね同じ認定基準でCPDを行い、ほぼ同仕様のシステムを運用しているJIA（日本建築士会協会）等とはデータの交換が可能となります。

したがって、建築士会で認定した研修プログラムの出席データは、JIAへも自動的に提出され、一方、JIA等の認定プログラムに出席した場合も、それらの団体から建築士会へ出席データが送られ、建築士会に登録されます。

また、希望により、建築CPD情報提供制度（事務局：（財）建築技術教育普及センター）へもCPD履歴データを送り、同制度を活用することも可能です。

表 建築士会CPD制度に登録できるCPD単位

参加プログラム	CPD単位登録先		
	建築士会	JIA	情報提供制度
建築士会認定プログラム			（法定講習・認定教材を除く）
JIA認定プログラム	（自習・委員会を除く）		（法定講習・認定教材・自習・委員会を除く）
情報提供制度認定プログラム			

(1) 行政機関の発注入札等への活用

各行政機関の入札等において、CPD 実績の活用が進んでいます。

建築 CPD 情報提供制度証明書を活用

(証明書交付は各自が普及センターへ費用を添えて申請します)

行政機関の工事発注入札等において、建設系 CPD 加盟団体の CPD 実績証明書を求める機関が多数あります。建築士会は、同 CPD 協議会の加盟団体であることから、建築士会 CPD 実証明書が活用されます。ただし、協議会加盟団体の中から特定の団体の発行する証明書のみを対象としている場合もあり、

行政機関に於けるCFO活用状況一覽						
25歳～34歳＋1期＋国交省(平成21年1月調査結果へ)						
	採用機関等	対象となるCFO制度の種別	採用・普及促進	採用機関等	対象となるCFO制度の種別	採用・普及促進
工事・設計入札 (総合評価方式)	宮城県	建設士会CFO制度	宮城県建設士会	工事入札 (総合評価方式)	高知県 高知市	建設士会CFO制度 高知県建設士会
工事入札 (総合評価方式)	宮城県 大崎市	建設士会CFO制度	宮城県建設士会	工事入札 (総合評価方式)	大分県	建設士会CFO制度 大分県建設士会
工事入札 (総合評価方式)	宮城県 東通町	建設士会CFO制度	宮城県建設士会	工事入札 (総合評価方式)	宮土交通省 中部地方整備局	建設士会CFO制度 高知県士会
工事入札 (総合評価方式)	宮城県 東通町	建設士会CFO制度	宮城県建設士会	工事入札 (総合評価方式)	宮土交通省 中部地方整備局	建設士会CFO制度 高知県士会
工事入札 (総合評価方式)	宮城県 東通町	建設士会CFO制度	宮城県建設士会	工事入札 (総合評価方式)	宮土交通省 中部地方整備局	建設士会CFO制度 高知県士会
工事入札 (総合評価方式)	宮城県 東通町	建設士会CFO制度	宮城県建設士会	工事・設計等入札 (総合評価方式)	宮土交通省 中部地方整備局	建設士会CFO制度 高知県士会
工事入札 (総合評価方式)	山形県	建設士会CFO制度	山形県建設士会	建設工事等入札参加資格審査	和歌山県	建設士会CFO制度 和歌山県建設士会
工事入札 (総合評価方式)	山形県 東部市	建設士会CFO制度 (建設士のCFO制度参加型)	山形県建設士会	建設工事等入札参加資格審査	高知県 高知市	建設士会CFO制度 高知県建設士会
工事入札 (総合評価方式)	山形県 東部市	建設士会CFO制度	山形県建設士会	建設工事等入札参加資格審査	高知県 高知市	建設士会CFO制度 高知県建設士会
工事・設計入札 (総合評価方式)	高知県	建設士会CFO制度	高知県建設士会	建設工事等入札参加資格審査	広島県	建設CFO情報提供制度 建設CFO運営協議
工事入札 (総合評価方式)	広島県	建設士会CFO制度	建設工事等入札参加資格審査 工事入札 (総合評価方式)	山口県	建設士会CFO制度 山口県建設士会	
工事入札 (総合評価方式)	広島県	建設士会CFO制度	建設工事等入札参加資格審査	愛媛県	建設士会CFO制度 愛媛県建設士会	
工事入札 (総合評価方式)	広島県 東通町	建設士会CFO制度	建設工事等入札参加資格審査	宮城県	建設士会CFO制度 宮城県建設士会	
工事入札 (総合評価方式)	広島県	建設士会CFO制度	建設工事等入札参加資格審査	徳島県	建設士会CFO制度 徳島県建設士会	
工事入札 (総合評価方式)	広島県	建設士会CFO制度	建設工事等入札参加資格審査	高知県 高知市	建設士会CFO制度 高知県建設士会	
工事入札 (総合評価方式)	岡山県	建設士会CFO制度	岡山県建設士会	佐賀県建設事務用電機工労務 組合	佐賀県	建設士会CFO制度 佐賀県建設士会
工事入札 (総合評価方式)	広島県 東通町	建設士会CFO制度 (建設士のCFO制度参加型)	広島県建設士会	一般競争入札 (総合評価方式)	栃木県	建設士会CFO制度 栃木県建設士会
工事入札 (総合評価方式)	広島県 岡山県	建設士会CFO制度 (建設士のCFO制度参加型)	広島県建設士会	測量等委託業務 (総合評価方式)	埼玉県	建設士会CFO制度 埼玉県建設士会
工事入札 (総合評価方式)	広島県	建設士会CFO制度	広島県建設士会	建築用名義登録(一般入札) 等業務	愛知県	建設CFO情報提供制度 建設CFO運営協議
工事入札 (総合評価方式)	愛知県	建設士会CFO制度	愛知県建設士会	建築・設計業務委託 (総合評価方式)	三重県	建設CFO情報提供制度 建設CFO運営協議
工事入札 (総合評価方式)	愛知県 高知市	建設士会CFO制度	愛知県建設士会	設計業務委託 (総合評価方式)	宮城県	建設CFO情報提供制度 建設CFO運営協議
工事入札 (総合評価方式)	高知県	建設士会CFO制度	高知県建設士会			

10

出席者名簿（見本）

「研修プログラム名」 建築士会CPD認定研修 出席者名簿

プログラムID:
主催者 :
実施日時 :
会場 :

●講師用記入欄(講習会主催者(プロバイダー)が記入)

	建築士会CPD番号(または建築士番号等) ※	姓(カナ)	名(カナ)	講師(H)	受講(H)
例	000000123456	ケンチク	タロウ	2.0	1.0
1					
2					
3					
4					

●受講者用記入欄

	建築士会CPD番号(または建築士番号等) ※	姓(カナ)	名(カナ)
例1	CPD番号の場合 00001234567	ケンチク	ハナコ
例2	一級建築士の場合は番号のみ 1234567	ケンチク	コウゾウ
例3	二級・木造建築士の場合は登録番号+番号 東京987654 北海道と兵庫県の場合は登録番号+支庁名+番号 北海道札幌123456	ケンチク	タロウ
例4	建築施工管理技士の場合は検定合格番号 B00100001	セコウ	カンリ
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

※ご記入いただいた個人情報は、建築士会CPD制度にかかる目的のために使用するとともに、個人情報保護法に基づき適正に管理いたします。

※講習会等主催者さまへ：この名簿のエクセルファイルの書式は変更しないで下さい。

3．建築士会CPDシステム 参加者用システム利用マニュアル

はじめに

建築士会CPDシステム / 参加者用システムでは、次のことが利用できます。

- 取得単位数の確認
- 認定教材の設問への解答
- ポートフォリオの作成

以下に利用方法について、解説いたします。

3 - 1 システム利用のための初期登録

はじめてに、このシステムを利用するための ID とパスワードを登録する必要があります。その手続は、以下の手順で行います。

以下のURLからシステムにアクセスしてください。

「参加者ログイン画面」の「参加登録」の文字をクリックし、「参加登録画面」に進みます。

URL <https://kenchikushikai-cpd.jp/>

The screenshot shows the 'CPD 情報システム ログイン' (CPD Information System Login) page. A callout box on the left contains the following text:

CPD 情報システムログイン

ログインを行います。
参加口は、登録が必要となります。(JIA会員の方は登録の必要はありません)
登録がお済みでない参加希望の方は**参加登録**してください。
ログインパスワードを忘れた方は、**こちらで変更**してください。

The main page has a header 'CPD 情報システム' and '参加者用'. Below the title is the login form with fields for 'ユーザーID' (User ID) and 'パスワード' (Password), and a 'ログイン' (Login) button. A red arrow points from the '参加登録' link in the callout box to the '参加登録' link on the page.

「参加登録画面」CPD 番号と生年月日(西暦 8 桁/例：1960 年 10 月 5 日の場合「19601005」)を入力しログインを押します。

The screenshot shows the 'CPD 情報システム 参加者登録' (CPD Information System Participant Registration) page. It has a header 'CPD 情報システム' and '参加者用'. Below the title is the registration form with fields for 'CPD 番号' (CPD Number) and '生年月日' (Date of Birth), and a 'ログイン' (Login) button. A red box highlights the 'ログイン' button.

サーバーに登録されている個人情報が表示され、画面下段の*のついている項目を入力します。

The image shows two parts of a web form. On the left is a smaller view of the '追加入力内容' (Additional Input Content) section, which includes fields for 'ログインパスワード' (Login Password), 'ヒント' (Hint), 'メールマガジン' (Email Magazine), and 'メールアドレス' (Email Address). A blue arrow points from this section to a larger, more detailed view on the right. The larger view shows the same fields with additional instructions and validation rules. For example, the password field requires 6 to 10 alphanumeric characters. The hint field requires a question and answer. The email magazine field has radio buttons for '希望する' (I want it) and '希望しない' (I don't want it). The email address field has a validation message: 'メールアドレスの修正のため閉じます。' (Closing for email address correction).

今後、ご自身がこのシステムにログインするための「ログインパスワード」を半角英数字 6 文字以上 10 文字以下で自由に入力します。

「ヒント」欄は、入力は不要です。必要があれば、入れてください。

「メールマガジン」欄は、今後、CPD に関する情報の配信を希望しない場合には、「配信を希望しない」にチェックを入れてください。

「メールアドレス」欄に、ご自身のメールアドレスを入力してください。ご指定のアドレスにパスワードのご連絡とメールマガジンを希望する場合の配信します。

「次へ」を押すと入力内容の確認画面がでますので、よろしければ「申請する」を押してください。

This screenshot shows the '追加入力内容' (Additional Input Content) section of the registration form. It contains four rows of input fields: 'ログインパスワード' (Login Password) with the value '1234abc', 'ヒント' (Hint) with the value '質問: 答え:', 'メールマガジン' (Email Magazine) with the value 'メルマガ配信を希望する', and 'メールアドレス' (Email Address) with the value 'yamada@henshu-shikaku.or.jp'. Below the fields are two buttons: '戻る' (Back) and '申請する' (Apply). A message at the bottom says 'メールアドレスの修正のため閉じます。' (Closing for email address correction).

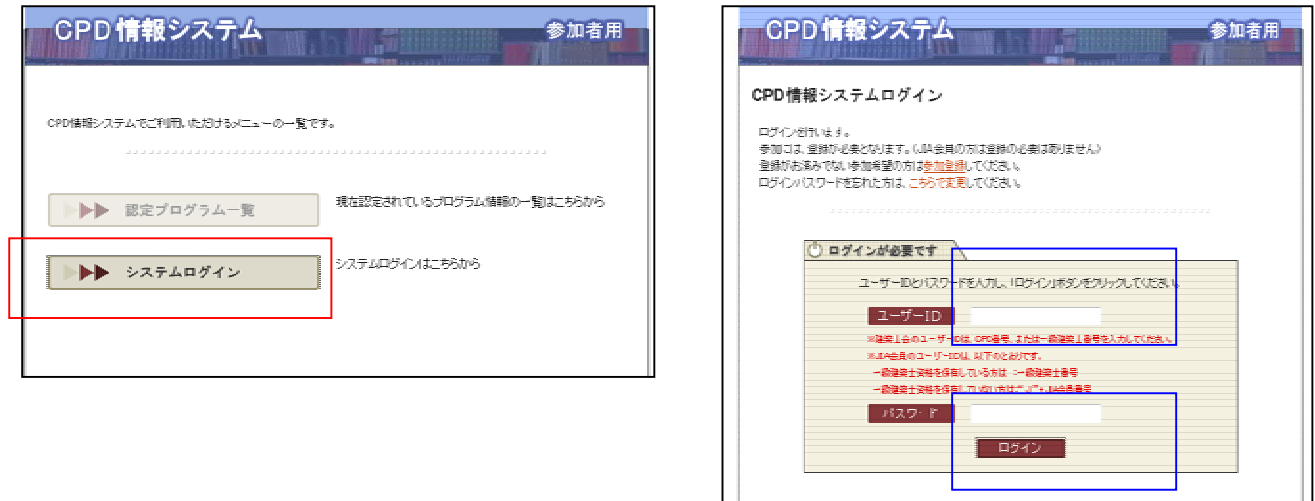
「参加登録が完了しました」の画面が表示され、終了です。

This screenshot shows the '参加登録が完了しました' (Registration Complete) screen. It features a message box with the text '参加登録が完了しました。' (Registration complete) and 'CPD番号、及び入力済みのログインパスワードでシステムを利用できます。' (You can use the system with your CPD number and login password). Below the message box is a button labeled '終了する' (End).

3 - 2 取得単位の確認方法

「参加者用画面」のシステムログインを押します。

「ユーザーID」にCPD 番号」と「パスワード ID」を入力し、「ログイン」ボタンをクリックして「参加者用」画面に入ります。



士会用「取得単位確認」を押すと履修履歴と取得単位が確認できます。



表示された履修履歴の印刷欄にチェックを付与し、「次へ(印刷)」を押すると、個人毎のポートフォリオを作成できます。
 ただし、証明書は士会事務局から交付を受けてください。

印刷する 閉じる

個人履歴一覧

所属: 東京建築士会
氏名: 建築 太郎

開催日時 (実施日)	プログラム名 (テーマ)	主催者 (自己研習名)	形態	分野	単位
2007年8月20日	最先端建築見学会	XXXXXXXX	Kjyy	Boss	1
2007年8月20日	最先端建築見学会	XXXXXXXX	Kjyy	Hoss	3
2007年5月31日	セミナー講習会「建築物の緑化に関する居住性能評価制」	XXXXXXXX	Kjyy	Boss	3
2007年5月31日	セミナー講習会「建築物の緑化に関する居住性能評価制」	XXXXXXXX	Kjyy	Boss	2
2007年4月10日	新入社員導入研修(1)	XXXXXXXX	Kjyy	Hoss	7
2007年4月10日	新入社員導入研修(2)	XXXXXXXX	Kjyy	Doss	8
2007年4月6日	新入社員導入研修(1)	XXXXXXXX	Kjyy	Boss	1
2007年4月6日	新入社員導入研修(1)	XXXXXXXX	Kjyy	Boss	6

問合せ先: 建築士会連合会(CPD事務局担当) TEL: 03-XXXX-XXXX FAX: 03-XXXX-XXXX
 〒XXXX-XXXX 住所 XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

Copyright (C) All rights reserved

建築士会CPD情報システム 参加者用

取得単位数確認

自己申請したプログラムの状況と取得した単位数の確認を行います。

参加者

ユーザーID: UUUUUUUUU
 参加者氏名: 建築 太郎
 参加履歴: 【建築CPD情報提供】【APCDエンジニア】【APCDアキテクト】【日本建築家協会】【日本建築士会連合会】

参加制度取得単位

実施期間: 2007年01月01日～2008年12月31日 確認する

取得単位数: 10.00

参加制度取得単位

参加学習型	修習単位型	自己学習型 (上限: 120単位 / 5年)	実務学習型 (上限: 75単位 / 5年)
0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

自己申請情報【審査待ち】

審査待ちの自己申請【新しいプログラムから取得を表示します。】

プログラムID	申請日	プログラム名	時間	状態
00020395	2007年12月27日	最先端建築見学会	1	審査待ち
00025702	2007年11月01日	空想屋の熱地帯	1	審査待ち
00025794	2007年11月01日	CADマニュアル	1	審査待ち
00024966	2007年10月10日	建築家「建築家としての基礎知識」	7	審査待ち
00024054	2007年8月20日	地盤工学・建築物	6	審査待ち

審査待ちの実務研修申請

申請日	プログラム名	単位	状態
2007年12月27日	最先端建築見学会	1	審査待ち
2007年11月01日	空想屋の熱地帯	1	審査待ち
2007年11月01日	空想屋の熱地帯	1	審査待ち
2007年10月20日	最先端建築見学会	2	審査待ち
2007年8月20日	最先端建築見学会	6	審査待ち

あなたの記録

履歴検索: 認定プログラム 自己申請 全て

実施年月日の新しい順に並び替えられています。

ID	プログラムID	実施日	プログラム名	時間	状態
00000025	2007年8月20日	最先端建築見学会	1	完了	
00000025	2007年8月20日	最先端建築見学会	3	完了	
00000028	2007年5月31日	セミナー講習会「建築物の緑化に関する居住性能評価制」	3	完了	
00000018	2007年5月31日	セミナー講習会「建築物の緑化に関する居住性能評価制」	2	完了	
00000063	2007年4月10日	新入社員導入研修(1)	7	完了	
00000060	2007年4月10日	新入社員導入研修(2)	2	完了	
00000061	2007年4月6日	新入社員導入研修(1)	6	完了	
00000061	2007年4月6日	新入社員導入研修(1)	1	完了	

次へ(印刷)

3 - 3 認定教材の設問への解答方法

認定教材には、内容確認の設問が用意されています。設問への解答をシステムを通じて送り、正解である場合には、事務局の確認を経て、単位登録されます。

はじめに、3 - 2のと同じ手順でログインします。

士会用メニューより、「認定教材研修申請」を押します。

プルダウンメニューから申請する「認定教材」を選択します。

設問への解答を選択する。内容記入欄は記入不要です。

入力後、「次へ」を押します。

士会用メニュー

取得単位数確認

現在、取得している単位数の確認はこちらから
認定プログラムによる取得単位数はプロバイダーより出席者名簿が提出
されたものに限り確認されます

認定教材研修申請

認定教材研修申請はこちらから

建築士会CPDシステム

参加者用

ログアウト

認定教材研修申請

認定教材研修の申請を行います。

自己申請基本情報入力

*印の項目は必ず記入のこと。

申請年月日 2010年3月24日 CPD番号 0100099999

申請先制度 [建築CPD情報提供] [APECエンジニア] [APECアーキ
家協会] [日本建築士会] (申請先士会:北海道)

氏名 堀 哲郎

研修年月日 2010年03月24日14:00~
2010年03月24日14:00迄

* 形態 [13] 専門書誌等購読
該当するものを選択してください。その際は、[番号]で始まる記号を選択します。

自習型教材

*自習型教材の選択 選択してください

設問 1 2 3 4 5

回答 - - - - -

キャンセル 次へ

申請を終了し、トップページへ戻ります。

CPD 番号、氏名を確認し、
必要欄を記入する。

ここで表示されるメニューから
当該「認定教材」を選択する

回答入力後に押す

設問への解答を選択する

[13] 専門書誌等購読とな
っていることを確認してく
ださい。
その他の選択はできないよ
うになっていますので、赤
字注下記は無視してくだ
さい。

入力内容が表示されますので、確認後、「申請する」を押してください。

建築士会CPDシステム 参加者用

認定教材研修申請

認定教材研修の申請内容の確認を行います。
入力情報(申請)が正しいか確認してください。
誤りがある場合はこのページ下部にある「戻る」ボタンをクリックして入力画面にお戻り下さい。
+ 確認アラートが表示されたままではこの画面には戻れません。の場合は正解に申請が出来ません。

自己申請情報確認

申請年月日	2019年03月24日	CPD番号	01000999999			
申請先制度	[建築CPD情報提供] [APECエンジニア] [APECアーキテクト] [日本建築家協会] [日本建築士会] [建築士会(北海道)]					
氏名						
研修年月日	2019年03月24日 10:00～ 2019年03月24日 11:00迄					
形態	専門書は無し 企業研修会ではない					
分野	倫理・法令分野 その他					
学習型教材	自習型教材					
学習型教材	テキスト入力認定教材					
解答	設問	1	2	3	4	5
	回答	a	b	c	d	e

戻る 申請する

認定教材研修申請入力画面に戻ります。

申請後、右の画面で「認定教材研修の申請登録を行いました。」のメッセージが表示されれば、申請完了です。

設問への解答が不正解の場合にはここで、申請ができませんので、再度はじめてからチャレンジしてください。

建築士会CPDシステム 参加者用

認定教材研修申請

続けて認定教材研修の申請を行う場合は、「続けて申請」ボタンをクリックしてください。
申請を終了する場合は、「終了する」ボタンをクリックしてください。

自己申請情報確認

認定教材研修の申請登録を行いました。

終了する 続けて申請

申請を終了し、トップページに戻ります。 続けて認定教材研修を申請する。